

大阪情報コンピュータ専門学校 授業シラバス (2026年度)

専門分野区分	デザイン・作画技法	科目名	デッサンⅣ				科目コード	D0520D3		
配当期	後期	授業実施形態	集中				単位数	2 単位		
担当教員名	中井 尚子	履修グループ	2I(DV/MC/MV/SC)				授業方法	演習		
実務経験の内容	芸術大学美術科日本画専攻を卒業後、パッケージデザイン・広告・プロダクトUIなど幅広い分野のデザインに携わり、4社に勤務。 そのほか、フリーランスとして絵画制作やイラスト、グラフィックデザインの制作にも従事。 これまでの経験を活かし、指導を行う。									
学習一般目標	目の前のモノをしっかりと観察し『構成・形・色調』を理解して画面へ展開できる。 デッサンを通して観察力と表現力、見直す力を養う。 集中して作品を描き切る。									
授業の概要および学習上の助言	デッサンは色と形を扱う者にとっての基本です。 モノをしっかりと観察し、『納得・把握・理解』して画面へ置く事で見たまま描けます。 観察力を養い、集中力を付け、まずいところがあれば自ら改めるとい基本姿勢を意識して進めてください。 今後プロになる為のベースになります。									
教科書および参考書	『基礎から学ぶ鉛筆デッサン』 MdNコーポレーション 『アーティストのための美術解剖学』 マール社									
履修に必要な予備知識や技能	自分自身で集中して取り組める様に必要な物を準備する。(眼鏡やコンタクト、モチーフ等) 鉛筆は削って。道具を完璧に準備すること。 ※「風景」を描く人は自身で撮影した写真を用意すること。目線や構図にこだわって複数枚撮影すること。									
使用機器	鉛筆(推奨: 2H・H・HB・B・3B 各1本以上)、消しゴム、練消しゴム、カッターナイフ、 スケール、クリップ、削りカス入れ簡易ゴミ箱、クロッキー帳 水彩道具一式(水彩デッサン希望者)									
使用ソフト										
学習到達目標	学部DP(番号表記)	学生が到達すべき行動目標								
	1	方向性、構成を考えて置くことができる。								
	1	空間、形を理解し画面に展開できる。								
	1	陰影により、立体や質感を表現できる。								
	1	軸や構造を理解し表現できる。								
	2	自分の作品や表現を客観的に捉え、修正できる。								
達成度評価	評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計	
	学部DP	1.知識・理解					80			80
		2.思考・判断							20	20
		3.態度								
		4.技能・表現								
		5.関心・意欲								
	総合評価割合						80		20	100
評価の要点										

評価方法	評価の実施方法と注意点
試験	
小テスト	
レポート	
成果発表(口頭・実技)	
作品	授業内で制作する作品を提出する。 課題に対する理解度・完成度から評価を行う。 ※立体表現、描きこみに特に注意すること。
ポートフォリオ	
その他	授業に対する姿勢や課題に対する取り組み、出席状況

### 授業明細表

授業回数	学習内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習)
第1回	1日目: デッサンの基本をおさらいした後 各自の力量、苦手部分に対して目標を設定し①～⑤のレベルで作品制作。 ①【1点モチーフ】期間中3～4点制作。 ②【複数モチーフ】期間中2～3点制作。 ③【組モチーフ】期間を通して制作。 ④【石膏首像・胸像】期間を通して制作。 ⑤【風景】期間を通して制作。	講義・実習	
第2回	①【1点モチーフ】:単体のモチーフを期間中で3～4点制作。 形、質感、色味、文字や模様など細部までこだわった作品を一点ずつ仕上げる。 ②【複数モチーフ】:モチーフを2～3個を組み合わせて制作。期間中で2～3点制作。 手前と奥の空間、形、質感、色味、文字や模様など細部まで描きあげた作品を一点ずつ仕上げる。 ③【組モチーフ】期間を通して制作。 一緒に囲むメンバーと相談しながらモチーフを組む。各々の構図確認。 構図を考え、空間やボリュームと細部の関係を把握し形を捉え、質感や細部まで表現する。	実習	
第3回	④【石膏首像・胸像】期間を通して制作。 構図を考え、構造や骨格、ボリュームと細部の関係をしっかりと把握し形を捉え、質感や細部まで表現する。 ⑤【風景】期間を通して制作。 目線や構図にこだわって自身で複数枚撮影すること。 奥行きを確認し、トリミング。消失点を見つけてELを確認、ガイドラインをひいて都度確認。 色がわかるまで描きこむこと。	実習	

第4回	<p>&lt;進め方&gt;  モチーフを選択→向き奥行き確認→クロッキー帳でレイアウト確認  ※画用紙に描く前に、チェックを受けること。</p> <p>構図決定後、画用紙に描く。  モチーフの把握、大きな立体の陰影から進める。  大きな立体が表現できたら徐々に群、部分へと進める。  都度見直しを心がけること。</p> <p>①②の方はモチーフを変える毎にチェックを受けてください。</p>	実習	
第5回	2日目:各自続き	実習	
第6回		実習	
第7回		実習	
第8回		実習	
第9回	3日目:各自続き	実習	
第10回		実習	
第11回		実習	
第12回		講義	
第13回	4日目:各自続き 完成へ 都度見直して、目の前のモチーフを描き切る。	実習	
第14回	講評		